

科目名	基礎法学						
科目名(英)	Introduction to Jurisprudence						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大谷美咲		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	法学の知識は、日常生活を送るうえで、必要なものです。本講義では、憲法、民法、刑法、労働法、行政法など幅広い領域の法律問題について取り上げていきます。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎					身近な法律問題について問題の本質を的確に理解できるようになる。	
	○					基本用語について、簡単に説明できるようになる。	
		◎				法律問題について考えることにより、論理的思考能力を身につけ自分の考えを的確に伝えることができるようになる。	
					◎	人権感覚を身につけ、価値相対性主義を理解することによって紛争回避ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	基礎法学 近畿大学九州短期大学通信教育部						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	法学の分類			テキスト第一章Ⅲに目を通しておく		
	2	憲法の全体構造、国民主権、象徴天皇制			テキスト第二章Ⅲに目を通しておく		
	3	幸福追求権、プライバシーの権利			プライバシーの侵害について考えてみる		
	4	平等権			性別による不平等、ジェンダー問題について考えておくこと		
	5	生命倫理と法			身体・生命の自己決定権、尊厳ある死について考えておくこと		
	6	政治と法			テキスト第二章Ⅶに目を通しておくこと		
	7	犯罪と刑罰の法			テキスト第八章に目を通しておくこと		
	8	確認テストと解説			各テーマについて説明できるようにしておくこと		
	9	家庭生活と法 婚姻			テキスト第六章に目を通しておくこと		
	10	家庭生活と法 相続と遺言			テキスト第六章に目を通しておくこと		
	11	労働生活と法			テキスト第七章に目を通しておくこと		
	12	裁判の仕組み			テキスト第九章に目を通しておくこと		
	13	裁判所見学及び裁判員制度体験			配布資料に目を通しておくこと		
	14	裁判所見学及び裁判員制度体験			裁判所について調べ、質問事項を考えておくこと		
15	まとめのテスト			全範囲の復習			
評価方法	授業中の積極性を加味し、期末試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意							

科目名	保育・教職実践演習SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障害児治療教育センター相談員・養護教員		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	社会福祉科では、3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探求して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的として「卒業研究」を実施している。本スクーリングでは、そのテーマを決定するためのプレゼンテーションと、進捗状況を報告する「中間発表」を行う。そして最終的に2月に本発表を行う流れになっている。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求して行くことができる。	
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○		△		真理を探求し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
	○	○		△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
○	○		△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる		
テキスト・教材 参考図書	特になし						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	1日目 卒業研究として追及したいテーマをグループもしくは個人で発表を行う			9月末に実施		
	2	1日目 テーマ発表の続き					
	3	1日目 テーマ発表の続き					
	4	1日目 発表を聞いてテーマとグループについての話し合い					
	5	2日目 グループ毎に中間発表を行う			11月後半に実施 (発表30分質疑応答20分)		
	6	2日目 グループ毎に中間発表を行う					
	7	2日目 グループ毎に中間発表を行う					
	8	2日目 グループ毎に中間発表を行う					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	卒業研究への取り組み状況	○	○		◎		20%
	グループ活動の参加状況	○			○		20%
	内容の理解	○	○		○		20%
	発表のスキルと意欲	○			◎		20%
自己とグループの振り返り				◎		20%	
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	言語表現SC						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	障害治療教育センター相談員・養護教員		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	本スクーリングでは、東住吉小学校の4年生の児童に対して、車椅子・アイマスク体験を体験してもらうための授業を、学生自身が企画・準備し、「福祉」という分野の学習を小学生に「教える」ことを通して、自分たちの知識を深めたり、改めて社会福祉の面白さ・魅力・重要性について気づくことを目標とする。						
授業形式	講義： ○	演習： △	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	△	○		△		小学生の目線に立った授業内容を企画することができる	
	△	○		△		子どもたちと積極的に関わり、体験の方法や福祉について伝えようと努力できる	
				○		グループワークでの活動に積極的に参加し、授業をスムーズに運営する努力を行う	
	○			○		自分たちの実践を振り返り、課題を見つけ出し、実際に働く上での指針とすることができる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	アイマスク班・車椅子班に分かれ、それぞれの体験を企画				クラス18名がアイマスク班と車椅子班の2グループに分かれ、体験授業を企画	
	2	アイマスク班・車椅子班に分かれ、それぞれの体験を企画				クラス18名がアイマスク班と車椅子班の2グループに分かれ、体験授業を企画	
	3	学生だけでシミュレーションを行う				自分たちで企画した内容を体験してみる	
	4	シミュレーションを振り返り内容を修正する				体験後に再度検討し修正を行う	
	5	アイマスク班・車椅子班に分かれ、子どもたちに体験授業を実施				半日ずつで小学生に体験授業実施	
	6	アイマスク班・車椅子班に分かれ、子どもたちに体験授業を実施					
	7	アイマスク班・車椅子班を交代して、子どもたちに体験授業を実施				翌日に体験2日目。1日目にアイマスクを体験した子どもは車椅子。車椅子の子どもはアイマスク体験	
	8	アイマスク班・車椅子班を交代して、子どもたちに体験授業を実施					
	9	全体の振り返り				子どもたちが帰った後、片付けと振り返りを行う	
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	スクーリングにおける参加状況と意欲点として評価する 成績評価基準はS(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	話し合いへの参加状況	○	○		◎		30%
	子どもたちへの関わり	○			○		30%
	振り返りのレポート	○			○		40%
履修上の注意	遅刻・欠席は認められない(該当する場合は再履修となる)。						

科目名	地域福祉の理論と方法 II					
科目名(英)						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高崎修一	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	民生委員・児童委員として地域福祉を推進	
対象学科・学年	社会福祉科3年					
授業概要	地域福祉の実践に関する項目の授業となる。法制度やサービス体系、地域福祉に関わる人材、関係機関・団体等の学習をすることにより卒業後の将来に備える。専門職として地域福祉の推進に如何に関わってゆくかまたどのようにしてフォーマル、インフォーマルサービスに関わるのかなどを学ぶ。また最近の動向として前期と重なるところはあるが福岡ライフレスキュー事業、貧困支援ネットワークふくおかなどの実践事例を紹介する。					
授業形式	講義:	○	演習:		実習:	
					実技:	
					※ 主たる方法:	○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○					地域福祉の実践に備える。
		○				実践的知識を身につけ、それを活用できるような人材を目指す。
				○		授業に対する熱意、将来地域福祉にどのように関わってゆくのかを期待する。
テキスト・教材 参考図書	ミネルバ書房の「よくわかる地域福祉」5版 ・自己作成プリント、参考図書「コミュニティソーシャルワークの理論」大橋謙策先生著					
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	地域福祉の政策と行政組織				5章プリント
	2	地域福祉に関する法制度 NPO法、日常生活自立支援事業(DVD)				同上
	3	地域福祉に関する法制度 成年後見制度 地域保健・医療、生涯学習				同上
	4	共同募金 5章小テスト				同上
	5	地域福祉のサービス体系: 情報提供・相談体制、福祉ニーズの発見				6章プリント
	6	地域福祉のサービス体系: ケアマネジメント、予防的サービス、環境改善S				同上
	7	地域福祉のサービス体系: 在宅サービス、施設サービス、インフォーマルS				同上
	8	地域福祉のサービス体系: 当事者活動、NPO活動 6章小テスト				同上
	9	地域福祉に関わる方法: コミュニティソーシャルワーク、ソーシャルサポート ネットワーク、ボランティアコーディネーター				7章プリント
	10	地域福祉に関わる方法: 地域組織化、間接援助技術、福祉教育				同上
	11	地域福祉の人材: 主体と担い手、コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター				8章プリント
	12	地域福祉の人材: 民生委員・児童委員、専門職、ボランティアに関して				同上
	13	地域福祉に関わる機関・団体: 社協、社会福祉施設、行政機関				9章(社協DVD30分程度)
	14	地域福祉に関わる機関・団体: SHG, 当事者組織、ボランティアセンター				同上
15	福祉のまちづくり: 福祉コミュニティ、ADA法、ユニバーサルデザイン等				10章プリント	
評価方法	5章、6章に関して30分～40分程度の50点満点の小テストを行い、あわせて100点満点の採点をおこなう。正試験100点満点のテストとの平均点にて総合評価を行う。但し正試験が60点以上の者が評価対象となる。評価基準は当校の基準にて5段階評価とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
			○			
			○			
					○	
評価割合						45%
						45%
						10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は正試験の受験資格を与えない。					

科目名	保健医療サービス						
科目名(英)	Health Service						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカーとして勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 3年生						
授業概要	MSW(メディカルソーシャルワーカー)に必要な知識を得ることを目標としつつも、何気なく過ごしている生活の中で必要な医療業界の仕組みについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					MSWの業務指針を踏まえつつ、MSWの持つ役割について理解することができる。	
		○				MSWの実践において求められるスキルについて理解することができる。	
		○				MSWの活動のフィールドである医療業界の仕組み、システムについて理解することができる。	
		○				診療保険制度、地域包括ケアシステムについての状況について理解することができる。	
			○			自身の身近な身の周りの課題として捉え、真摯に向き合うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	中央法規 新・社会福祉士養成講座17「保健医療サービス」						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション～MSWの概要～					
	2	MSWの役割(業務指針から)①					
	3	MSWの役割(業務指針から)②					
	4	MSWに求められるスキル①					
	5	MSWに求められるスキル②					
	6	診療報酬の流れ					
	7	MSWの歴史					
	8	社福士の診療報酬上の位置づけ					
	9	保険の種類について					
	10	病棟の種類について～病院のシステム～					
	11	医療関連の専門職について					
	12	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ①					
	13	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ②					
	14	地域包括ケアシステムについて～目指される方向性は～ ③					
15	まとめ(これまでに内容の復習)			定期試験の向けて、これまでの授業内容を確認しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業に出席するのではなく、「参加」し、積極的な姿勢についてを評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	発表・授業参加度				◎		20%
履修上の注意	毎回の授業でパソコン(パワーポイント)を使用します。可能であれば様々な動画を通じて考える機会を設けたいと思いますので、動画放映の準備をお願いします。出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えません。						

科目名	社会調査の基礎								
科目名(英)									
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	郡嶋かおる				
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	元障がい児者施設指導員				
対象学科・学年	社会福祉科3年								
授業概要	社会調査に携わったことがほとんどないと思われるが、今後ますます社会福祉専門職にとって重要となる。身近な問題や起こり得る生活課題を扱ながら、実際に調査の企画から結果考察までの一連の流れを体験することで実感の伴う知識の習得を目指す。①社会調査の意義と目的、②統計法(社会調査における倫理および個人情報保護)、③統計手法、④量的調査の方法、⑤質的調査の方法、⑥社会調査の実施にあたってのITの活用等								
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報		知的技能		運動技能		態度意欲	○	目標
							○	社会調査の意義・目的を説明することができる。	
							○	社会福祉領域の社会福祉調査の重要性を説明することができる。	
							○	社会調査にかかわる法律や倫理の重要性について説明できる。	
							○	量的・質的調査方法を説明できる。	
							○	社会現象の背景を推察し、「問い」をたてることができる。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書 米川和雄『ソーシャルワーカーのための社会調査の基礎 入門から社会福祉士国家試験対策まで』北大路書房 斎藤嘉孝『社会福祉調査 企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社								
	回数	授業項目・内容						授業外学修指示	
授業計画	1	社会調査とは ①社会調査の意義・目的、②社会調査の対象、③ソーシャルワークと社会調査						自分が調査したいこと	
	2	社会調査の方法							
	3	統計法 統計の目的・意義、主な統計資料、基幹統計							
	4	質問紙調査 自計式と他計式、訪問、郵送、留置き、							
	5	倫理と個人情報 社会福祉士会、社会調査協会、個人情報保護法						どういった情報があると個人を特定できるか考える	
	6	量的調査の方法 ①全数調査と標本調査、短所と長所、抽出法、横断調査と縦断調査							
	7	自形式と竹意識							
	8	質問紙の作成方法と留意点 質問の内容、質問の順番、回答方式							
	9	量的調査のデータの集計と分析方法 データ化のプロセス、測定、単純集計とクロス集計、データーの図表							
	10	質的調査の方法 観察法と面接法、アクションリサーチ							
	11	質的調査のデータの分析方法 KJ法、エスノグラフィー、GT法							
	12	ITの活用法政府統計の総合窓口、分権の検索方法、IT利用の展開と問題点						ITで資料を集める「自分の住む町の地域福祉計画」をダウンロードし概観する	
	13	論文を読みまとめ報告書を提出する						CiNiiを使って、自分の興味のある論文をダウンロードしてまとめる	
	14	報告書の作成 読みやすい報告書について							
	15	まとめ 試験に向けて							
評価方法	①定期試験、②振り返り提出								
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験	◎	○				70%		
	ふりかえり	◎	◎				10%		
	レポート	○	◎		◎		10%		
	発表・作品				◎		10%		
履修上の注意	状況によって授業内容を変更することがある。授業を円滑に進行するためには、課題は必ず作成して来ること。スマホ等の携帯電話は、カバンの中に片付けておくこと。積極的な発言と質問を期待します。※5回の欠席で定期試験を受ける権利は消滅することを理解しておくこと。								

科目名	福祉サービスの組織と経営						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	宮井浩志		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にてMSWとして勤務		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	措置制度の時代からの名残であろうか現在でも通常のサービスと福祉サービスを別物として捉え、誤った理解がされている。世間だけでなくサービス提供する側でさえも多くの者が未だにその認識のままである。この授業では、契約制度の福祉サービスは今や身の回りにある一般のサービスと何ら遜色ないことを理解し現在の福祉サービスの概要だけでなく、組織や経営面まで学んでいく事で現場及び経営者側の両方の視点を身に付け、社会で応用できる力を養っていく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					福祉サービスの概要について説明することができる	
	○					組織の概要を説明することができる	
テキスト・教材 参考図書	中央法規出版 医療保険サービス						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	サービスの理解					
	2	福祉サービスの理解					
	3	経営管理の理解					
	4	経営計画の理解					
	5	法人の種類と概要					
	6	社会福祉法人についての理解					
	7	NPO法人についての理解					
	8	組織の理解					
	9	集団の理解					
	10	グループダイナミクスの理解					
	11	リーダーシップの理解					
	12	サービスマネジメントの理解					
	13	全体のまとめ					
	14	特別授業(タイムマネジメント)					
15	特別授業(コミュニケーション)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				70%
	発言・質問・学習姿勢				◎		30%
履修上の注意							

科目名		権利擁護と成年後見制度					
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大坪秀生		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	ケアマネジャーとして勤務 社会福祉士として後見業務に従事		
対象学科・学年	社会福祉科 3年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●単なる座学で終わらない、グループワークやディスカッションに取り組み言語化していく。 ●専門科目のみに収まらない「社会福祉士」としての職業倫理を学び考える。 ●社会人としての心構えを学び意識していく。 						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○	○	「権利とは何か」を考え理解し、言語化できる。	
	○	○		○	○	専門用語や仕組みを学ぶことで身近に感じ、それが活かされる生活に場面をイメージできる。	
	○	○		○	○	権利擁護を学ぶことで、人権の大切さや意義を知り、実際の生活に結び付けることができる。	
	○	○		○	○	社会福祉士の存在価値や意義を理解し、専門職としての役割がイメージできる。	
	○		○	○		進路について真剣に考え、就職等に向けて計画に基づいて行動することができる。	
テキスト・教材 参考図書	参照:『社会福祉士ワークブック』中央法規出版 その他						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション、権利とは			この科目の注意事項を伝えます		
	2	日本国憲法と権利			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	3	私法・民法と権利			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	4	実際の事例を通して…新聞記事から人権を考える			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	5	相談のインテークと連携 事例を通して1			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	6	専門職の役割りと権利擁護 事例を通して2			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	7	社会福祉士の視点からみる権利擁護 事例を通して3			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	8	地域で支える 事例を通して4			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	9	司法の視点からみる権利擁護 事例を通して5			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	10	成年後見制度とは～その1 事例を通して6			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	11	成年後見制度とは～その2 事例を通して7			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	12	マネジメント技法(ケースの捉え方) 事例を通して8			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	13	まとめ 振り返り			ニュース・新聞等で自治情勢を知る		
	14	スペシャル企画 I					
15	スペシャル企画 II						
評価方法	(1)授業の中でミニレポートや小テストを実施する。(2)グループワークを数回実施する。 (3)定期試験(筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 ※定期試験の解答欄に空欄があった場合は、1つにつき5点の減点とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト・レポート	◎	○				10%
	グループワーク・発表	◎	○		◎	○	20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	相談援助演習Ⅵ(保育・教職実践演習)						
科目名(英)	Exercises of Social Work Ⅵ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉科3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探求して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的としている。また、グループで研究を行うことを通して共同で物事を進めて行くためのチームワーク力や、さまざまな社会資源を発見する力なども養いたい。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求していくことができる。	
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○		△		真理を探求し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
		○		△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
	○		△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる		
テキスト・教材 参考図書	それぞれの研究に必要な文献、インターネットによるリサーチなど						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	卒業研究の目的と方法について					
	2	テーマの選定					
	3	テーマ決定とグループの決定					
	4	中間発表に向けて研究					
	5	中間発表に向けて研究					
	6	本発表に向けて研究					
	7	本発表に向けて論文の完成					
	8	発表に向けてパワーポイントの作成					
	9	発表に向けてパワーポイントの作成					
	10	発表に向けてパワーポイントの作成					
	11	発表に向けてパワーポイントの作成					
	12	本発表					
	13	本発表					
	14	本発表					
15	本発表						
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)卒業研究自体を評価の対象とするため定期試験は実施しない。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	テーマに対する理解		◎		◎		30%
	論文の作成	◎	◎		◎		30%
	発表の方法と技術	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	研究に対する姿勢や、チームでの協力の度合いを重要視する。						

科目名	相談援助演習Ⅶ(卒研)						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	48時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	この科目は、社会福祉科3年間の集大成として自らテーマを選び、真実を探求して行く姿勢や、論理的、客観的に物事を考えて行く思考力、分析力、文章力等を養い、ソーシャルワーカーと言う専門職につく上で大切な能力を身に付けることを目的としている。また、グループで研究を行うことを通して共同で物事を進めて行くためのチームワーク力や、さまざまな社会資源を発見する力なども養いたい。						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		△		人間や社会に対して興味関心を持ち、深く物事を追求して行くことができる。	
		○		△		「社会福祉」の問題に関心を持ち、学ぶ意欲を向上させることができる。	
		○		△		真理を探求し、客観的・論理的に考えることができるようになる。	
		○		△		文章を読んで理解し、必要な部分を抽出し、整理してまとめる事ができる。	
	○		△		聞いている人に分かりやすく説明・発表することができる		
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	卒業研究の目的と方法について					
	2 ～ 3	テーマの選定			必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと		
	4	テーマ決定とグループの決定			必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと		
	5 ～ 9	中間発表に向けて研究			必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと		
	10 ～ 12	中間発表に向けて研究			必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと		
	13 ～ 14	本発表に向けて研究			必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと		
	15 ～ 17	本発表に向けての論文の完成			必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと		
	18 ～ 23	発表に向けてのパワーポイントの作成			必要な文献、ホームページを閲覧し、しっかりと記録に残しておくこと		
	24	本発表					
評価方法	(1)授業の出席状況。授業への参加態度。 (2)内容の理解度。 (3)卒業研究自体を評価の対象とするため定期試験は実施しない。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	テーマに対する理解		◎		◎		30%
	論文の作成	◎	◎		◎		30%
	発表の方法と技術	○	◎		◎		30%
	出席状況				◎		10%
履修上の注意	研究に対する姿勢や、チームでの協力の度合いを重要視する。						

科目名	マナー						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	小川 智子		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	企業にて秘書及び研修講師		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	福祉従事者としての立ち居振る舞いについて考え、豊かな対人コミュニケーションの為の言葉遣いとマナーを身につける。実習先で誰からも好感・信頼感を持たれる実習生であるための、意識と知識の習得を目指す。社会人としての正しいマナー、慶弔の知識の習得を目指す。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				実習生の品格について理解できる	
	○					電話対応や訪問時の正しい言葉遣いとマナーについて理解できる	
	○					好感・信頼感を高める言語コミュニケーションについて理解し活用することが出来る	
		○				実習中の正しいマナーや報告、連絡、相談について理解し活用することが出来る	
				○		愛される福祉従事者としての立ち居振る舞いについて理解し実行することが出来る	
テキスト・教材 参考図書	プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業オリエンテーション・就職活動マナー(面接・手紙)					
	2	社会人1年生の正しい言葉遣い					
	3	社会人1年生の正しい言葉遣いとケーススタディ					
	4	社会人1年生の正しい言葉遣いとケーススタディ、名刺のマナー					
	5	新社会人の宴会マナー(言葉遣いとマナー)					
	6	年賀状のマナー、接待(ご案内)のマナー、職場の人間関係					
	7	席次のマナー、年末年始のマナー					
	8	席次のマナー、まとめ、茶菓の接待					
	9	冠婚葬祭のマナー、慶弔マナーのまとめ					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)授業の中でグループワークや発表を数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	グループワーク・発表				◎		30%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	情報処理Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	岩下 隆司		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	社会人スクール講師3年 専門学校情報処理担当教員21年		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	各種提出資料や発表資料を作成できるよう ①入力レベルの向上 ②Microsoft Excelの操作方法の習得						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
			○			ローマ字入力において、10分間に200文字～300文字入力できる。	
			○			Excelを使って、表作成、関数の挿入、グラフ作成ができる	
テキスト・教材 参考図書	FOM出版 情報リテラシー入門編						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	入力チェック・Excelの仕組み					
	2	入力チェック・計算式の挿入					
	3	入力チェック・簡単な表作成					
	4	入力チェック・関数の挿入(基本関数)					
	5	入力チェック・関数の挿入(応用関数)					
	6	入力チェック・カレンダーの作成					
	7	入力チェック・カレンダーの作成					
	8	入力チェック・カレンダーの作成					
評価方法	(1)授業冒頭に10分間入力を実施する。(2)授業内で演習課題を実施する。 (3)Excelでカレンダーを作成する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	10分入力文字数			◎	○		40%
	授業内実施課題の提出			◎	○		40%
	授業態度				◎		20%
履修上の注意	出席が6回に満たない場合は、単位を付与しない。						

科目名	心理学						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	大黒 剛		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	児童福祉施設や矯正施設で心理士として活動		
対象学科・学年	社会福祉科3年生						
授業概要	①さまざまな心理学理論の基礎を学び、人の心の成り立ちや状態を理解する視点を習得する。 ②心理的支援とは何か、日常生活で心理学を活用するにはどうすればよいか、基本となる考え方を習得する。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					さまざまな心理学理論を基に人の心の成り立ちや状態について説明できる。	
		○				日常生活の中に生かされている心理学について興味・関心を持ち、自身の日常生活と関係づけることができる。	
	○					心理的支援の意味を理解し、具体的な支援方法について説明できる。	
				○		人の心の仕組みを理解しようとする意欲と同時に自分の心の状態を見つめ理解しようとする基礎態度を身につける。	
テキスト・教材 参考図書	徹底図解 心理学 生活と社会に役立つ心理学の知識						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	授業内容についてオリエンテーション、「心理学とは？」					
	2	心理学への招待「心理学とその歴史」				教科書該当範囲をあらかじめ読んでおくこと	
	3	心の育ち方「乳幼児期から思春期まで」母子関係、友人関係				対人関係の基礎となる、養育者との関係について考えておくこと。	
	4	心の育ち方「青年期から成人まで」恋愛と結婚について				あなたにとって恋愛とは何か、結婚とは何か、恋愛と結婚の違いとは何か、考えておくこと。	
	5	人の個性を科学する「性格とパーソナリティ」				自分の性格について自己分析して語れるようにしておくこと。	
	6	心のしくみ①「記憶」忘れたい人がいるのに忘れられない謎				忘れたい記憶なのにどうしても忘れられない話があれば語れるように準備しておくこと。	
	7	心のしくみ②「動機付け」「感情」				やる気がない時に、どのようにやる気を上げているのか考えておくこと。	
	8	心のしくみ③「学習」「言語」「思考」				あなたは自分の経験をどのように未来に活かしているのか、考えておくこと。	
	9	社会的問題と心理学①「児童虐待とは何か」				児童虐待事件について、インターネットなどから最新の情報を集めておくこと。	
	10	社会的問題と心理学②「児童虐待の影響」				心的外傷後ストレス障害、愛着障害について勉強しておくこと。	
	11	心の傷と心の病気①「さまざまな精神疾患」				傷付き体験やストレス、ストレッサーについて考えておくこと。	
	12	心の傷と心の病気②「うつ病」「自殺」				うつ病や自殺に関する最近の動向について、厚生労働省のホームページなどを確認しておくこと。	
	13	社会と集団①「対人魅力」モテる人とモテない人の違いとは。				モテる人とはどんな人か、どうすればモテるようになるのか、考えておくこと。	
	14	社会と集団②「自分は他人からどう見られているのか」				自分は自分のことをどう思っているのか、他人は自分のことをどう思っているのか、考えておくこと。	
15	まとめと復習				心理学とは何か、日常生活で心理学を活用するためにはどんな方法があるのか、考えておくこと。		
評価方法	(1)講義の終わりに感想・疑問点・気がついたことなどを記入・提出してもらおう。(2)期末試験を実施する。(3)出席回数。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	◎	◎		◎		100%
履修上の注意							

科目名	就職実務Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	山下琢也		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・高齢者施設にてソーシャルワーカー		
対象学科・学年	社会福祉科3年						
授業概要	社会人になる上でのマナーや身嗜み、教養知識を身につける。まずは、就職活動における企業研究・履歴書添削・面接指導を行い就職内定へ繋げる。また、クラスや学科行事を行い学科・学年を跨いで交流を深める事でコミュニケーション力向上や協調性を身につけ業界へ適した人材育成に繋げる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		業界に適した清潔感のある身嗜みをし日常的に維持することができる	
				○		社会人としてのマナー(挨拶・電話・メール・態度など)を身につけ実践することができる	
	○					就職活動における報連相を素早く行うことができる	
	○					好感もてる表情や口調で自身の伝えたいことを話し、企業の求める人材像に相応した面接ができる	
			○			自身の立場をわきまえて行動し、周囲へ配慮することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック、求人票、受験者報告書、配布プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動指導①(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと	
	2	就職活動指導②(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと	
	3	就職活動指導③(就職活動状況報告・企業研究・受験準備)				説明会資料やパンフレットを準備しておくこと 企業HPをみておくこと	
	4	就職活動指導④(履歴書作成)				履歴書に記載する内容をまとめておくこと	
	5	就職活動指導⑤(履歴書作成)				履歴書に記載する内容をまとめておくこと	
	6	就職活動指導⑥(履歴書作成・添削)				履歴書の下書きをしておくこと	
	7	就職活動指導⑦(履歴書作成・添削)				履歴書の下書きをしておくこと	
	8	就職活動指導⑧(履歴書添削・面接対策)				履歴書の下書きをしておくこと 面接で話す内容を考えておくこと	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)提出物は各期限を設定する (2)ホームワークを数回実施する (3)自習・行事を数回実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	授業態度				◎		50%
	意欲・努力				◎		20%
	提出物状況				◎		30%
履修上の注意	欠席が6回以上となる場合は、単位未取得となる						

科目名	交流ゼミⅢ-②					
科目名(英)						
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	川原ゆり・山下琢也・若狭恵美	
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	専門学校にて常勤教員として勤務	
対象学科・学年	社会福祉科3年生					
授業概要	社会福祉科の全学年の学生を混合し、グループを編成。そのグループ内で学年を超えた交流を図る。最終的には、当科で実施する「社福祭」に向けての準備を行うことができる。					
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
				○		積極的な姿勢を持って、他学年の学生やグループ内の学生とコミュニケーションを図ることができる。
				○		物事の段取りを修正しながら、臨機応変な対応を行いつつも計画的に行事を実行することができる。
				○		物怖じすることなく、積極的にレクリエーションに参加することができる。
				○		グループの中心となり、レクリエーションを企画・運営することができる。
			○		人間同士の関わりの中で、人間関係の調整を図ることができる。	
テキスト・教材 参考図書						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示
	1	グループ内の自己紹介・他己紹介				
	2	グループ内でのレクリエーション				
	3	グループ内でのレクリエーション				
	4	グループ内でのレクリエーション				
	5	グループ内でのレクリエーション				
	6	グループ内でのレクリエーション				
	7	社会福祉科「交流会」に向けての準備				
	8	社会福祉科「交流会」に向けての準備				
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						
評価方法	ゼミに臨む姿勢、態度が第一優先である。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他
	姿勢・態度				◎	
						評価割合
						100%
履修上の注意	2/3以下の出席状況にて、単位習得不可とする。					